



第九たいむず

No.31 2015.1.15 通刊 1124 号 担当 GON

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX: 027-322-0996 緊急 090-1828-8052(あきら)



2015年の高崎第九合唱団の活動がスタートしました。そして、今日から、新しい練習場での練習となります。皆で、注意し、私たちの活動にご理解、ご協力下さる、皆様にご迷惑をかけず、ご期待に沿うようしましょう。

◆ 明けましておめでとうございます②

副団長 中村成子



明けましておめでとうございます。

昨年の演奏会では、私自身とても気持ちよく歌うことができ、楽しい演奏会でした。しかし、座席を指定席のシステムに変更したため、なれないこともあり、販売に戸惑った方も多かったはず。また長年使わせていただいた教会が使えなくなったこと。これも急な事でしたので、あわててしまいました。それでも問題を解決してこられたのは、団長を始め役員さんたちのあきらめない心のせいでしょうか！これからもいろいろな問題があるかもしれませんが、運営委員の皆さん、事務局の皆さんと一緒に解決していこうと思います。毎年一年があつという間に過ぎていって

しまいますが、充実した一年にしたいですね！

今年はドイツ公演もあり、忙しくなりそうです。どうか、今年もよろしくお願いいたします。

◆ ありがとう、そしてさようなら、カトリック高崎教会・・・お世話になりました

先週1月8日の2015年発声式、新年会は、長年練習ホームとして、お世話になった、カトリック高崎教会とのお別れの会でもありました。長い間お世話になった方、まだ1年しかお世話にならなかった方も、その感謝の思いを、発声式にぶつけたことと思います。

赤羽団長の念頭ご挨拶、有志の「豚汁チーム」のおもてなし、色とりどりの持ち寄り食べ物で、楽しく歓談できたと思いました。そして、益々充実の先生方+1のソロ陣、ユリヤ先生のピアノで、今年の第九を歌い初め出来、教会の建物の神様も優しく送り出して下さったような気がしました。

ありがとう、そしてさようなら、カトリック高崎教会！！・・・お世話になりました。



◆ 本日より、新しい練習会場 木曜日は地域医療センター(旧館)4階

本日より。木曜日の練習会場は、地域医療センター(旧館)の4階になりました。第三木曜日にも第九合唱団が使えることになりました。ただし、貸会場として整備された建物ではなく、医師会の会館ですので、貸し出していることは公言できません。(個人的な伝言は可能です。)

また、平日の医師会業務終了後、全館の管理を合唱団で引き継ぎますので、平日しかお借りできません。**禁煙と練習会場以外の立入禁止も厳守**してください。

※所在地は「高崎市高松町6番地」。飲食は可、冷暖房・エ



レベーター完備、駐車場なし。※問い合わせは、たいむずの帯にも書いてある合唱団あてにお願いします。医師会や地域医療センターへのお問い合わせは絶対に行わないでください。

※名称「**地域医療センター(旧館)**」「**地域医療センターだった旧館**」又は「**医師会の会館**」です。建物の看板は外されています。紛らわしい名称があるので注意してください。「高崎医療センター」「総合医療センター」と言う「国立病院」を指します。「地域医療センター」と言う「総合保健センター(保健所・図書館)」を指します。

※駐車場 3月末までは教会南側駐車場(市役所側の半分)が使用できます。4月以降は、教会南側駐車場で建設工事が始まるため、新たに利用できる駐車場を今後お知らせします。

◆ **第8回ヨーロッパ公演 申込受付中！**

基本コースは2015年11月1日(日)～8日(日)の8日間。11月6日(金)トリアー市交響楽団との共演による第九演奏会等。希望者によるオプショナルツアーは11月11日(水)までで、アムステルダムを訪れます。詳細は募集案内を御覧ください。**団員先行申込受付をしています！**
申込書に必要事項を記載し、申込金30,000円と団費17,000円を添えてお申し込みください。

◆ **ヨーロッパ公演発声式 2015年1月18日(日) 高崎市中央公民館**

1月18日(日)午後1時30分から、高崎市中央公民館集会ホールにて、『第8回ヨーロッパ公演発声式』を行います。旅行申込受付・旅行社 ICEC の説明会・練習も行いますので、ご参加ください。
※この日、文化会館で1時30分から市民寄席(売切れ)があり、駐車場の満車が見込まれます。
乗り合わせや公共交通機関のご利用をお願い致します

◆ **第41回演奏会の写真、CD&DVDについて 申込受付中！**

演奏会の写真撮影は井田写真館様に、CDは音楽センターで録音して団にてCD化、DVDはアマチュアの方をお願いして制作していただきます。価格はCD、DVDは1枚1,000円、写真は送料、消費税込みで1,200円です。いずれも、注文制作となります。CD、DVDは申込表に、申し込んでください。写真は、サンプルを見て申し込んでください。
なお、いずれも団員向けのもので、団員以外には口外しないようにお願いします。

◆ **H26年度高崎市社会教育功労者表彰 2015年1月31日(土)**

高崎市社会教育功労者としてアルトの宮田美智子さんが表彰されます。**おめでとうございます。**
高崎市民活動センター ソシアスにて、午前10時から表彰式が行なわれます。ぜひ皆さんで宮田さんの表彰式を拍手で盛り上げましょう。

◆ **今後の予定**

1月15日(木) 通常練習開始 (**地域医療センター旧館4階、駐車場は教会南側の市役所側**)
1月18日(日) 第8回ヨーロッパ公演練習発声式・旅行説明会(中央公民館 集会ホール)
2月22日(日) すみだの第九演奏会 (両国国技館)有志参加 / 海外第2回練習
5月17日(日) 「高崎第九合唱団メイコンサート2015」(群馬音楽センター)
5月21日(木) 2015年総会 ★5月28日(木) 練習お休み

◆ **「メイコンサート2015」にむけて 楽譜販売開始しました**

本日より、「メイコンサート2015」(ドイツ公演プレコンサート)に向けての練習が開始されます。
使用する楽譜は、

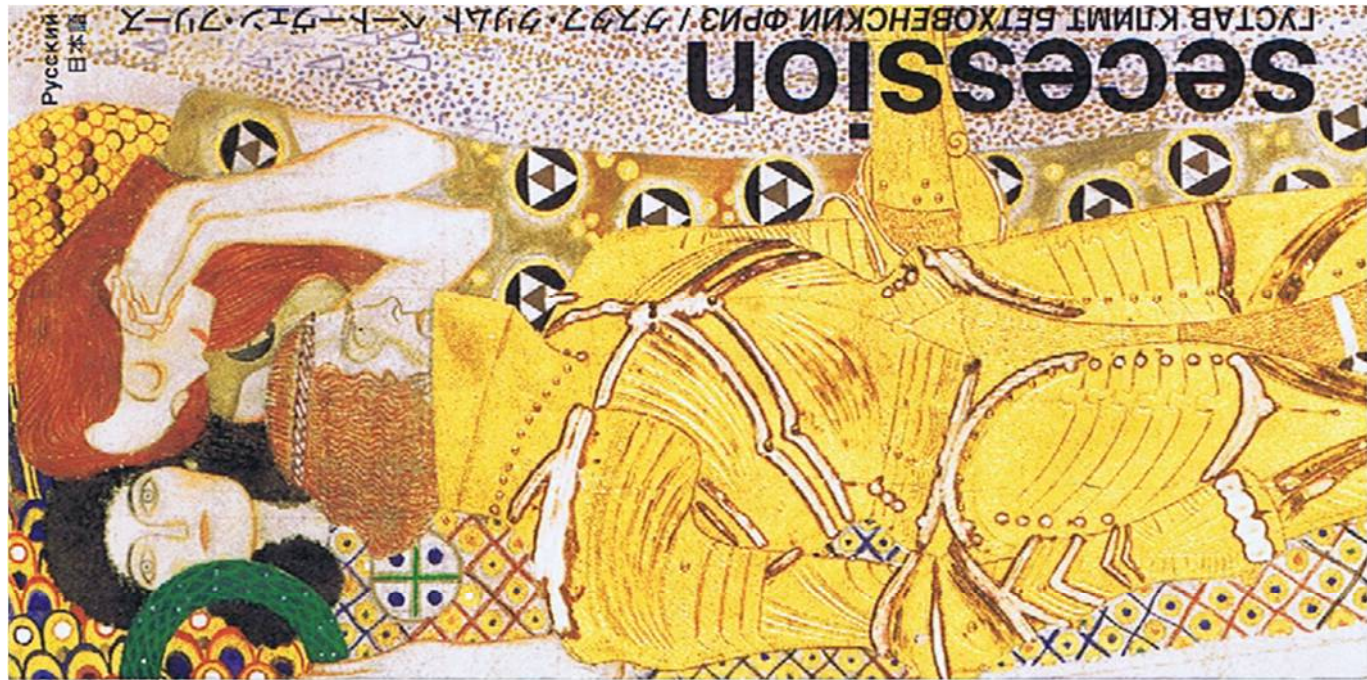
- No.1 日本の歌 (会津磐梯山、赤とんぼ、さくらさくら、ソーラン節、富士山)
- No.2 ドイツの歌 (流浪の民、眠りの精、ローレライ、学生歌、タンホイザー)
- No.3 イーゴリー公 (ポローヴの娘達のコーラス、ポローヴの巡視、ダツタン乙女の踊り、ハンの誉め歌) <今TV、JR東海のCMで流れていますね！>

の3冊です。受付にて、お求め下さい。

◆ **裏面紹介**

裏面に、昨年暮れ、赤羽先生が訪れたウィーンからのお土産(グスタフ・クリムト ベートーヴェン・フリーズの説明パンフレット)、及び、発声式スナップ写真をご紹介します。

secession



(c) Find the maximum / minimum values of y .



Page 10 / 10

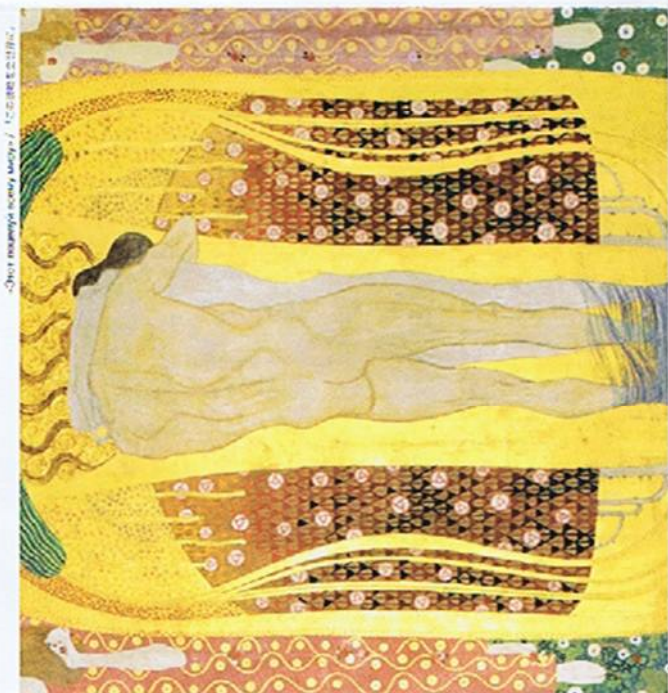


497-726-7777 (toll-free) or 800-451-2269

グズスタッフ・クリムトは「オーストリア彫刻家協会」いわゆる「ウィーン分離派」(ゼムツェン・フリゼ)の第十四回展(1902年4月15日~6月27日)のために、有名な「ペーゲン・フリン」を制作した。この展覧会では、分離派が記念品として用意したグズマンの車になる彫刻家デザインを逆として、明確に打ち出した。その意図は、分離派という所定な芸術運動に参加した21名の会員に対する賞賛の意を示すものとして掲げられた。その結果、彼らの作品は、肉体的にも精神的にも、完全にばかちかちか思われていた。その結果、彼らのペーゲン・フリンは、同様に驚きあふれるものとなつてゐる。

ワクリムトの記念碑的な壁画が展示されていたのは、展覧会を訪れた人がまず最初に足元を踏み入れることになる左側の部屋であった。今日この壁画は、芸術作品として独自の特徴を有する、ウィーン世紀末芸術の遺産をなす作品とみなされている。

このフリーズのテーマは、われわれ人類の幸福への憧れである。クリムトは、このテーマをベートーヴェンの「第九」に対するワグナーの解釈ののっとなって表現した。この作品の象徴としてクリムトが選んだのは、浮世を享楽する情婦たちである。彼女たちは、左側の壁面において、われわれを娯楽の甲べに誘い、フリーズの名で、水平に流れる水の如く、物欲の海となつて、何れも歸り差しを断つてしまひ、同じ悲運のなかで、このテーマ



Order now! Save money! 1-800-967-2244

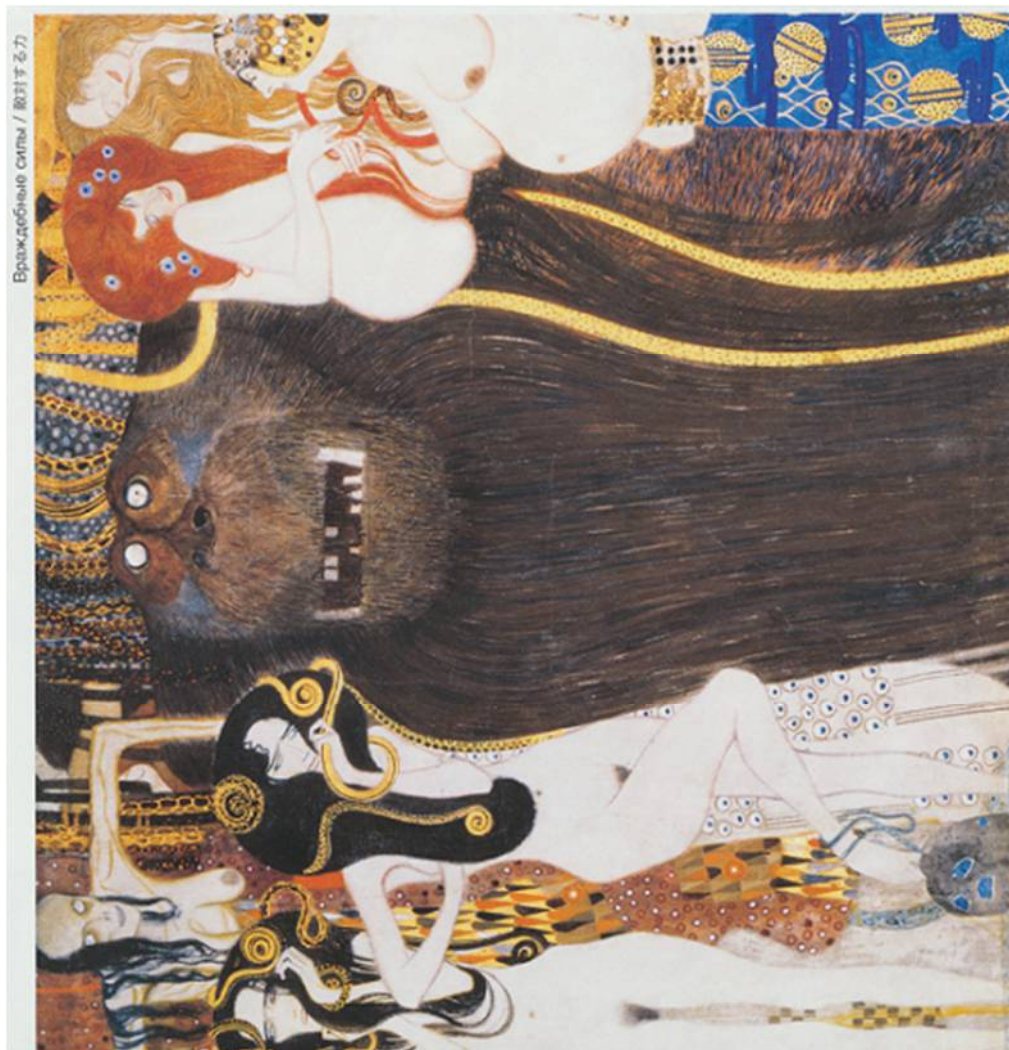
人魚丸が一所所だけだが、地獄の人物群によって申渡されるところがある。そこでは、人間の罪状を象徴する立止姿の裸の女性とびざまずく裸の男児が黄金の環に身を包んだ輪の上に動けずを歩かざるというこの「黄金式魔の場所」は、人類の代表として、これから幸福の道に入ると女子からうたっているところである。その婦士の心を内面から支えるのが、彼の言葉による女性の姿をした二人の霊體像、即ち情と功名心である。

正面の狭い範囲を見ると、われわれ人類は「敵対する力」がたまたまず危険と認識に立
ち、右方向のやうなばならないこと、背のむくやうで、背のむく一面を持ち、終
つてこのやうな動物になる。神聖に尊ばれる動物ジュエーションが、わが心でその意を
伝へてくたさず、貴族を用いた新建築工が施された目で彼を見る者をにらんでいる。その左に
は、チュフォーンの象たち、すなわちユルゴの三頭馬が立ち、狂犬、狂の海賊達の上
からこちらをじっと見つめる。彼らのような女性の頭部は、既成、狂犬、狂の海賊達
に、右に見える女性たちには、渾身、不忠、そして、その配えつたおなかで示される
不忠不義の像である。さらに、もう一人、ほかの人物たちとは若干離れたところで、うすく
透き通っている儼然とけがた女性には「われわれの心をむしむ若き種」を表している。この
狭い範囲の右の上層を見ると、そこには浮遊する気候の暖部が描かれていること
に気づく。当時の風俗画がタロダに描かれたクリムトの言葉による
「敵対する力」の上をばさえているのである。

右側の壁面において、われわれ人類の幸福への憧れは「詩」のなかにその思慕を見出し、空母を持った女性の姿として擬人化されているがそれだ。「詩」に続く部分の壁画は聖書の出来事と見做されてゐる。この聖書には、観客から部屋の奥面に置かれたクリンクラングのペーヴーン像を、聖壇の下に置け放たれた聖書を測り見て居る際、余計なものも視界に入らないようにという配慮のもと、展覧会の会場デザインとして、わざとあしひかされたものである。このように、ペーヴーンのいわば非難的に対応する視覚的配置もなされている一方で、もう一方では、このフリーズが通るドラマのクライマックスがクリムトによって準備されている。最後の場面で、われわれは、さまざまな情勢を象徴する女性の姿に導かれ、芸術による理想の境地へと到達する。クリムトによる芸術の性格には「真実の天使たち」の台詞の中で強調する一組の男女犬によって表されている。この表現が直接ペーヴーンと結びついていることはいうまでもない。というのも「この演劇的な世界」とは、ペーヴーンの『第九』の最後合唱からとらえた第一幕で、さらに元をとれば、フリードリッヒ・シラウの詩「牧歌に導き」までさかのぼることになるからだ。

このアリーズは、不景、この展覧会のための一回限りの装飾画として考えられていたが、展覧会の終了とともに、壁からはがされ、商業界を遊動に合った。しかし、美術コレクターのカール・ライニンガーはこれを購入し、クリムト回顧展（1903年）の分冊「第18回展」の巻末で、この作品を最もそのことに相応しいと評して、その下、下記の部分とともに、八つの部分に分け、母からはすべしう贈答を下した。その後、1915年にこのアリーズは、美術家アグダスト・リデラーが獲得したが、1938年、ナチス（国家社会主義ドイツ労働者党）により没収されてしまったため、オーストリアに残されることになった。そして1973年、法律家の手引きを経て、最終的にこのアリーズは、オーストリアの所有物となり、十年の歳月をかけて、ウィーンの国立文化財研究所で修復が施された。

1986年、分館建設の地下に、この作品のために作られた特別展示室が設けられ、以来、ベート・ヴェン・フリーズは、オーストリア・ギャラーの長期貸し出し品として一般に公開されている。



グスタフ・クリムト(1862ー1918)は、19 世紀末から 20 世紀かけて活躍したユーゲントシュティール(象徴主義)を代表するゼツェッション(ウィーン分離派)の画家。その代表作に「ペーターヴェン・フリーズ」があります。私たちの第40回記念演奏会の、ポスター、チラシ、プログラムに採用されました

